



四国山の日
11月11日は四国山の日です

プレスリリース

平成30年2月23日
四国森林管理局

シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための香川大学農学部、
徳島県三好市と徳島森林管理署の連携協力に関する協定の締結について

本日、香川大学農学部、徳島県三好市と四国森林管理局徳島森林管理署は、三好市の「木の文化」の象徴である国指定重要有形民俗文化財の「祖谷のかずら橋」と「奥祖谷二重かずら橋」の架け替え資材であるシラクチカズラの資源確保と活用を推進するための連携協力に関する協定を締結しました。

今後、三者が連携協力し、国有林を活用しながら、シラクチカズラの資源確保と果実等の活用に向けた取組を進め、重要な文化・観光資源であるかずら橋の保全や果実の特産化を通じて地域社会の活性化に貢献してまいります。

1 経緯

「祖谷のかずら橋」と「奥祖谷二重かずら橋」は、四国の秘境と言われる徳島県三好市西祖谷山村（にしいややまそん）の「木の文化」の象徴である国指定重要有形民俗文化財であり、多くの観光客が訪れる重要な観光資源です。祖谷のかずら橋は3年に1度架け替えが行われ、架け替え資材として、丈夫で腐りにくいシラクチカズラの蔓が使われますが、シラクチカズラは主に山間部に自生しているため、その資源確保が課題になっています。

また、シラクチカズラは、マタタビやキウイフルーツの仲間であり、その果実はビタミンC、抗酸化物質、タンパク質分解酵素など機能性に優れた成分を含んでいて、果実酒、ジャム、ジュースなどに加工されており、三好市山城町が果実の特産化に取り組んでいます。

こうしたことから、徳島県三好市と徳島森林管理署は、平成20年から、シラクチカズラの資源確保のため、国有林を活用して、シラクチカズラの苗木を植栽して栽培試験等を行ってきましたが、活着率が低いなどの課題を抱えていました。

このため、今般、つる性植物の増殖や育成に関する高度かつ専門的な知見を有する片岡教授（理事・副学長兼農学部教授、前農学部長）をはじめとする香川大学農学部の指導を得ながら、徳島県三好市、徳島森林管理署を加えた三者が協定を結び、互い

に連携・協力して、シラクチカズラの資源確保と果実の活用に向けた取組を進め、重要な文化・観光資源であるかずら橋の保全や果実の特産化の推進を通じて地域社会の活性化に貢献していくことになりました。

2 協定の内容

香川大学農学部、徳島県三好市及び徳島森林管理署が、それぞれが有する人材、資源、フィールド、技術及び情報を用いて相互に協力し、シラクチカズラの資源確保とその果実等の活用を推進することにより、地域社会の活性化に寄与することを目的としています。

具体的には、三者が以下の事項について相互に連携して取り組みます。

- ① シラクチカズラの増殖・育成に関すること。
- ② シラクチカズラの資源調査に関すること。
- ③ シラクチカズラの果実等の活用に関すること。
- ④ その他、三者が協議して必要と認める事項に関すること。

3 協定締結者

香川大学農学部長 ふかい せいいち
深井 誠一

徳島県三好市長 くろかわ せいいち
黒川 征一

四国森林管理局徳島森林管理署長 ただ ひろゆき
多田 弘之

4 協定締結日 平成30年2月23日

<添付資料>

- 資料1 シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための連携協力に関する協定書
資料2 シラクチカズラの資源確保と活用を推進するため協定について
資料3 参考資料：シラクチカズラの育成に向けた取組などについて

<お問い合わせ先>

徳島森林管理署

総括森林整備官 森長（もりなが）

TEL 088-637-1230

(資料1)

シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための連携協力に関する協定書

香川大学農学部(以下「甲」という。)、徳島県三好市(以下「乙」という。)及び四国森林管理局徳島森林管理署(以下「丙」という。)は、三好市の「木の文化」の象徴である国指定重要有形民俗文化財の「祖谷のかずら橋」及び「奥祖谷二重かずら橋」の架け替え資材であるシラクチカズラの資源確保とその活用を推進するため、次のとおり協定を締結する。

(目的)

第1条 甲、乙及び丙は、それぞれが保有する人材、資源、フィールド、技術及び情報を用いて相互に協力し、シラクチカズラの資源確保とその果実等の活用を推進することにより、地域社会の活性化に寄与することを目的とする。

(連携協力する事項)

第2条 甲、乙及び丙は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項について相互に連携協力する。

- (1) シラクチカズラの増殖・育成に関すること。
- (2) シラクチカズラの資源調査に関すること。
- (3) シラクチカズラの果実等の活用に関すること。
- (4) その他三者が協議して必要と認める事項に関すること。

(秘密保持)

第3条 甲、乙及び丙は、前条各号に掲げる連携協力により提供された情報及び得られた情報について、事前の了承なく第三者に開示しない。また、それらを本協定の目的外に使用しない。

(有効期間)

第4条 本協定は、締結の日から2021年3月31日まで有効とする。ただし、有効期間満了の日の前月末日までに甲、乙又は丙から特段の申し出があった場合を除き、さらに3年間有効期間を更新するものとし、その後も同様とする。

(協議)

第5条 本協定に定めのない事項については、甲、乙及び丙が速やかに協議し、別に定めるものとする。

この協定を証するため、本協定書3通を作成し、甲乙丙記名押印して、各1通を保有する。

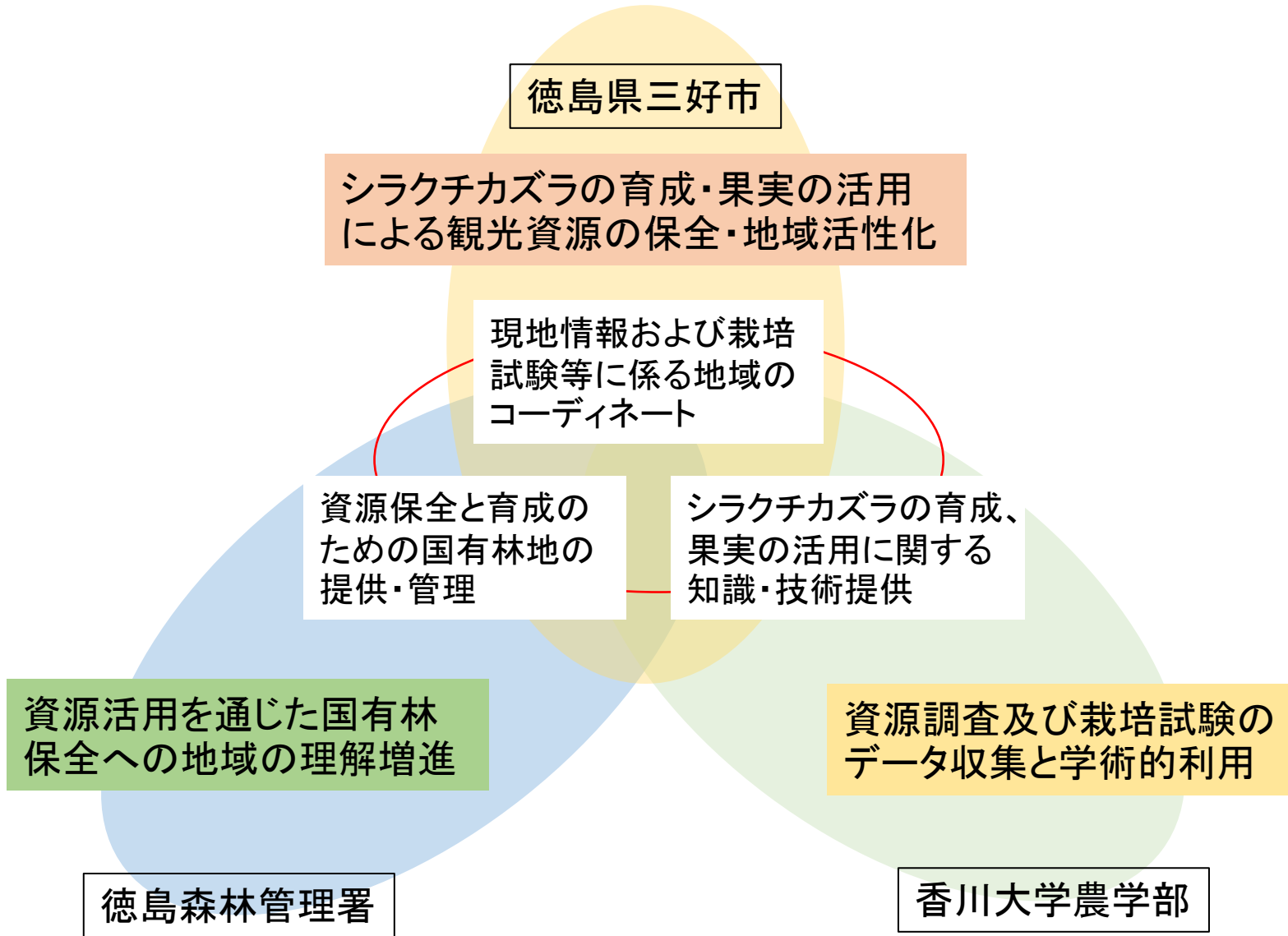
年 月 日

甲 香川県木田郡三木町池戸2393
香川大学農学部
農学部長 深井誠一 (印)

乙 徳島県三好市池田町シンマチ1500-2
徳島県三好市
市長 黒川征一 (印)

丙 徳島県徳島市川内町鶴島239-1
四国森林管理局徳島森林管理署
署長 多田弘之 (印)

シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための連携・協力協定について



参考資料

1 シラクチカズラとは

シラクチカズラとは、サルナシ (*Actinidia arguta*) の別名。サルナシは、マタタビ科に属する雌雄異株のつる植物で、その仲間にマタタビや中国自生のシナサルナシなどがある。シナサルナシを品種改良したものがキウイフルーツ。

シラクチカズラは、主に山間部に自生し、つるは、赤茶色で太くなると黒っぽい茶褐色になり、丈夫で腐りにくく、祖谷のかずら橋の材料に使われている。果実は、緑色で直径2～3 cm、長さ3～4 cmで、ビタミンC、抗酸化物質、タンパク質分解酵素など機能性に優れた成分を含んでおり、果実酒、ジャム、ジュースなどに加工されている。



サルナシの実(香川大学農学部にて撮影)

2 祖谷のかずら橋とは

祖谷のかずら橋とは、「四国の秘境」と言われる徳島県三好市西祖谷山村にしいややまそんにあるかずら橋のことで、シラクチカズラの蔓つるを編み連ねて作られている。その歴史は古く、かつては祖谷川の各所にかずら橋が架けられていたとされるが、現在残っているのは「祖谷のかずら橋」と「奥祖谷二重かずら橋」の2つのみ。徳島県三好市の「木の文化」の象徴である国指定重要有形民俗文化財に指定され、外国人を含む年間約30万人の観光客が訪れる。祖谷のかずら橋は3年に1度架け替えが行われる。



祖谷のかずら橋



奥祖谷二重かずら橋

3 シラクチカズラの育成に向けた取組

徳島県三好市と四国森林管理局徳島森林管理署は、平成20年から、シラクチカズラの資源確保のため、栗枝渡国有林（三好市東祖谷）を活用して、シラクチカズラの苗木（約1500本）を植栽して栽培試験を行ってきたが、活着率が低いなどの課題を抱えていた。

このため、平成29年から、キウイフルーツを含むマタタビ属植物の研究者である香川大学片岡教授（理事・副学長兼農学部教授、前農学部長）に現地に来ていただき、シラクチカズラの挿し木の方法、育苗過程での日照・水管理、林内への植付け後の管理などの指導を受けながら、シラクチカズラの育成に取り組んできた。

こうした取組を踏まえ、今般、香川大学農学部、徳島県三好市及び徳島森林管理署の三者が協定を結び、互いに連携・協力して、シラクチカズラの資源確保と果実の活用に向けた取組を進めていくことになった。



子供たちによる苗木つくりの様子



シラクチカズラ(4年生苗)



初めて活着



片岡副学長による現地指導

協定締結式の様子 と 新しく架け替えられたかずら橋

